

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおとしています。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子師 俵屋吉富

本店

京都市上京区室町通上立売上ル

電話 (075) 432-2211

烏丸店

京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 (075) 432-3101

圓明

平成二十八年 夏号(第一〇六号)

大本山相国寺
相国会本部

暑中お見舞い申し上げます

平成二十八年 盛夏

◆表紙写真

相国寺 法堂と大文字送り火

毎年八月十六日の夜、京都では精霊を送る行事として「五山の送り火」が行われ、市内各所の夜空を焦がす。東山如意ヶ嶽の「大文字」は、足利八代將軍義政公が、延徳元年（一四八九）に早世した九代義尚公（常徳院殿）の菩提を弔うために始めたとも言われ、墓所のある相国寺の方角を向くとされる。

また「大」の元字は、相国寺の住持であった横川景三禪師が書した。

撮影◎柴田明蘭写真事務所



まるにくん
© 2016 相国寺

宝物
拜見

伊藤若冲生誕三〇〇年記念



今年（今年）は伊藤若冲生誕三〇〇年にあたり、

その作品のうちいくつかを巻頭カラーにてご紹介いたします。

なお、「生誕三〇〇年記念・伊藤若冲展」が七月一日（金）から十二月四日（日）まで、
承天閣美術館にて開催されます（巻末カラー78ページ参照）。

ぜひご覧ください。

「伊藤若冲像」久保田米徳筆

重要文化財

鹿苑寺大書院 旧障壁画

双鶏図貼付

番の鶏。若冲は生涯に亘り鶏を描き続けた。最も手近で、何処にでもいる、最初に写生を手掛けた生き物。自宅に数十羽飼って動きを観察しつつ描いたという。餌になる野菜は自ら経営する店の商品。当然厭いはなかったであろう。



売茶翁像

梅莊顯常贊

ひとり歩いて溪橋を渡る、興り来りなば何處に向わんや清きを汲み兼えて芳を煮る、風味誰と與にか知る

蕉中題

売茶翁（一六七五〜一七六三）は黄檗宗の僧。煎茶道を広めた事で著名。名は月海元昭、高遊外と号した。自ら売茶翁と称し、洛中の至る所で茶を煎じ俗境に身を置いたが、日常はすこぶる枯淡虚静であったと云う。大典、若冲と深く交わり、相国寺山内林光院に一時期寄寓している。若冲の描いた翁の像は、知られているだけでも数点伝存している。髪は伸び、古びた鶴氈衣を纏い、天秤棒に茶道具を入れ橋上に立つ。皆このような闊達な姿で描かれている。

【鶴氈衣】被布のような仕立てで、白地に黒く縁を取った道服。昔、隠者・道士等が着た。



鱧えい 図

芝山持豊しばやまもちとよ 賛

わたつみの 底をこくした たつねとも
まれらなるへし かかるすかたは

若冲は海老、蛸、烏賊等様々な魚貝類を描いている。この鱧、尻尾の中ほどにある毒を持った棘とげが描かれていない。棘を切り取って錦市場の店先に並べてある品を写したのである。回りは錦の若旦那の道楽か御酔狂と見ていたのではないか。実に愛嬌のある顔付である。

芝山持豊（一七四二〜一八一五）は若冲と同時代の公家。家格は名家。正二位権大納言。本居もとゐり宣長の学風を慕い、国学歌道に通じる。堂上歌人のみならず、幅広く町衆とも交際した。



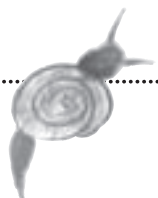
芭蕉ば 小禽しょうしゅう 図

太湖石を覆う大きな芭蕉の若葉。色鮮やかな芭蕉の花。伸びる途中の細い若芽に小禽（小鳥）がとまる。
太湖石とは中国蘇州太湖周辺の丘陵に産する石灰岩の奇石。水の浸食で奇妙な「くぼみ」や「孔穴」ができ、観賞石として喜ばれた。この太湖石と芭蕉と鳥の組み合わせは、中国元・明時代から多く描かれるようになった。若冲自身もこれを得意としている。小禽を画面中央に置き、安定した構図を作っている。





U R L <http://www.shokoku-ji.jp>
E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)



内局

相国会総裁

有馬頼底

副総裁

佐分宗順

会長

片岡匡三

本部長

矢野謙堂

管 承天閣美術館名譽館長

有馬

頼

底

宗 庶務部 部長

豊光寺住職 佐分宗順

教 学 部 部長

大光明寺住職 矢野謙堂

法 務 部 部長

普廣院住職 山木雅晶

教 学・庶務部 部長

眞如寺住職 江上正道

財 務・庶務部 部長

豊光寺副住職 佐分昭文

承天閣美術館館長

養源院住職 平塚景堂

同 事務局 局長

長栄寺住職 鈴木景雲

同 参事

養源院副住職 平塚景山

同 鹿苑寺執事 長

林光院住職 澤田宗泰

同 執事

是心寺住職 和田賢明

目次 宝物拝見 伊藤若冲生誕三〇〇年記念

「鹿苑寺大書院旧障壁画 双鶏図貼付」「売茶翁像 梅莊顕當賛」

「鱒図 芝山持豊賛」「芭蕉小禽図」

御挨拶……………宗務総長 佐分宗順 8

仏道定款……………大通院 相国寺専門道場師家 小林玄徳 12

心の財産……………演劇塾 長田学舎 斉藤維明 17

「臨済の喝！」―宗祖臨済禪師 一一五〇年遠諱をむかえて―…教学部 江上正道 25

本山日より……………坐禅会のご案内 30

教区日より……………相国寺史編纂室日より 53

相国寺史編纂室日より……………教化活動委員会委員長 佐分宗順 61

教化活動委員会活動報告……………相国寺 秋の特別拝観 75

相国寺 秋の特別拝観……………承天閣だより「森田りえ子展」「生誕三〇〇年記念・伊藤若冲展」 76

心のすがた…………… 80

同 執事 慈照院副住職 久山哲永

宗 議 会 議 員

第一教区 長得院住職 緒方香州

第二教区 竹林寺住職 牛江宗道

第三教区 福圓寺住職 大谷昌弘

第四教区 東源寺住職 角野元保

第五教区 正善寺住職 穎川孝生

第六教区 本誓寺住職 延本輝典

第六教区 感應寺閑栖 芝原一三

宗 務 支 所 正 副 長

第一教区 養源院住職(正) 平塚景堂

第二教区 林光院住職(副) 澤田宗泰

第三教区 竹林寺住職(正) 牛江宗道

第四教区 本派庶務部長兼任 正善寺住職(正) 穎川孝生

第五教区 本誓寺住職(正) 延本輝典

第六教区 感應寺閑栖(正) 芝原一三

御
挨拶



宗務総長 佐分宗順

本派寺院、相国会、檀信徒の皆様、暑中お見舞い申し上げます。

本年は臨濟禪師一一五〇年・白隠禪師二五〇年遠諱おんきの年を迎え、

三月十日には臨濟宗黄檗宗連合各派合議所主催による遠諱法要
が東福寺において営まれ、盛大のうちに無事に円成致しました。

これに先立ち三月五日より九日まで雲納報恩ほうおんおおぜっしん大接心が行われ、

東福寺山内一〇カ所以上に喚鐘場かんしょうばが設けられました。二二二二人の
雲水が参加し、吾が僧堂の韜光室とうこうしつ老大師を始め三十五僧堂の老師
方に参禅する機会が与えられたことは誠に意義深く希有な出来
事でありました。そして京都国立博物館で開催された「禅―心を
かたちに―」展は八万八千人を超える入場者を得てこれもまた成
功裏に終了致しました。

この遠諱行事は今年一年間まだ諸行事がつづきます。本年九月、
相国寺派では六日から十一日までの五日間の訪中団を結成して、
九月七日に行われる日中合同遠諱法要に参列致します。その後

相国寺の友好寺院、開封にあります大相国寺を訪問する予定です。

また、東京国立博物館において「禅—心をかたち—」展が開催され、京都とは一部展示内容も替わる予定です。相国寺派の皆様にもご協力をいただいているこの遠諱行事が成功し、無事すべての行事が円成いたしますよう努めて参りたいと思います。

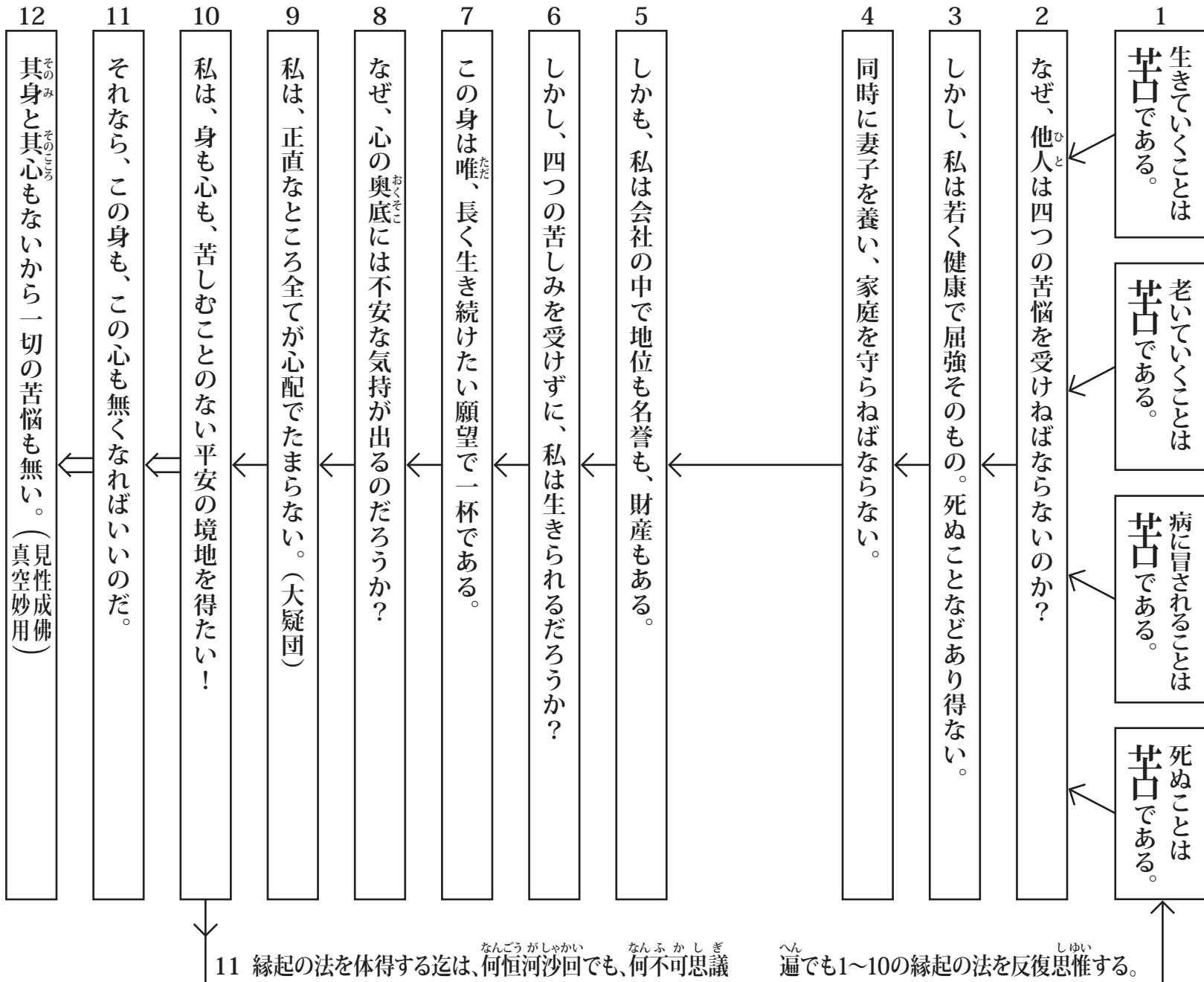
さて本年は東福寺での大遠諱法要を機に、臨済宗黄檗宗連合各派合議所の理事当番及び臨済宗連合各派布教団本部担当本山が相国寺から南禅寺に移りました。二つの団体の理事職を二年間無事務め終えることができ、関係各位のご協力に感謝申し上げます。

本年後半期は、未だ手つかずであった相国寺諸規則の改正を始め、本山や派内の諸問題の解決に向けて着手したいと考えています。現在決定されている事業として、この秋には、手狭になった茶礼の間及び編纂室と資料室の建設を含む第二寺務棟の建設が始まります。来年八月末完成の予定ですが、工事中、皆様にはご迷惑を掛けることとなりますが、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。暑さに向かいますが、皆様におかれましては健康には十分お気をつけて頂き、相国寺派のますますの発展と、相国寺派各ご寺院の隆盛のため、ご健勝にてご活躍頂きたいと願っております。

仏道定款

大通院
相国寺専門道場師家
小林玄徳

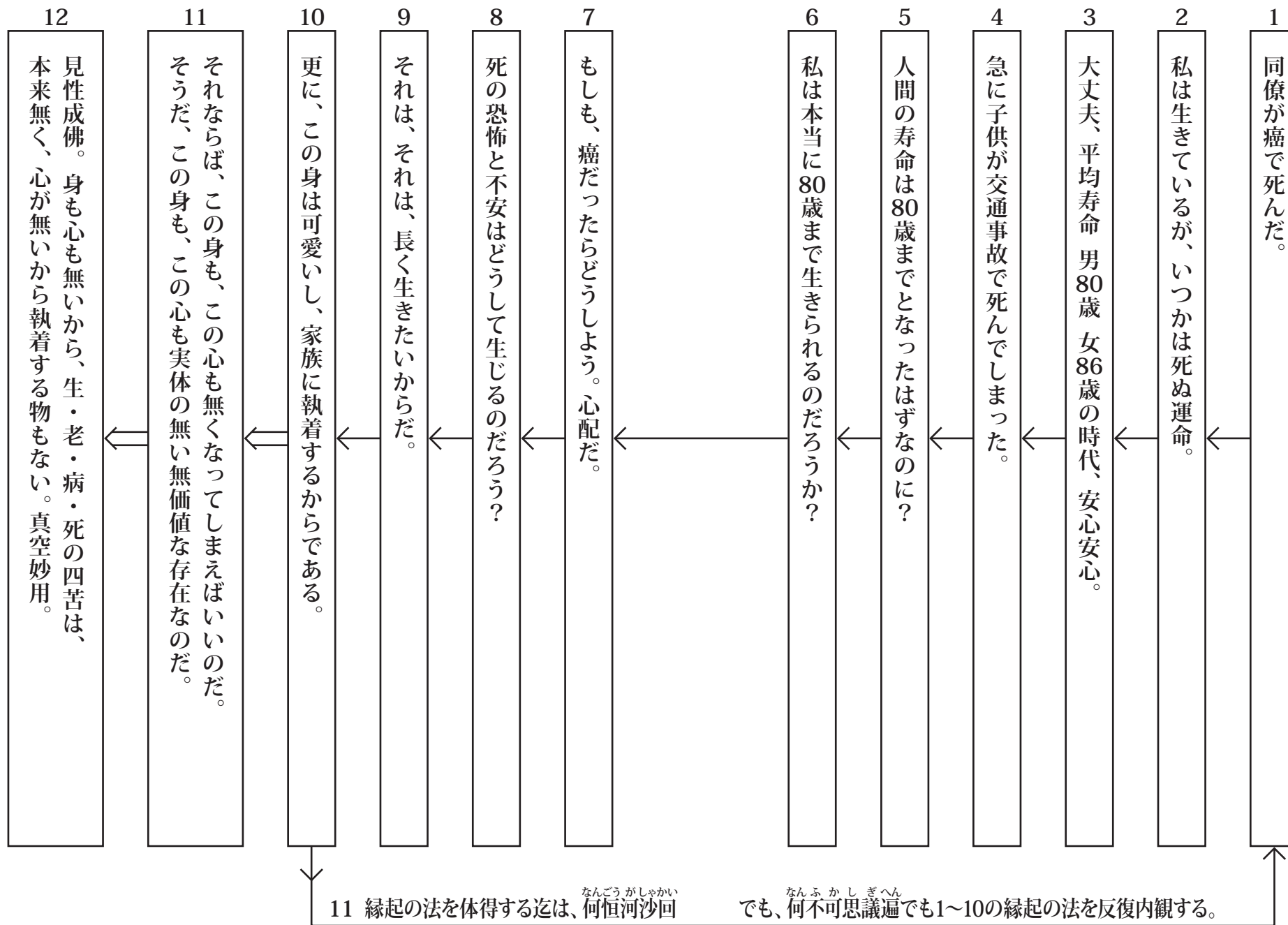
第四条 簡約十二縁起 I



佛道定款

— YOUR GUIDE FOR
DEATH EDUCATION —

第四条 簡約十二縁起 II



「仏法」

十二縁起
十二因縁

生・老・病・死の四苦を真実「苦」と感じる様になって初めて十二因縁への「第1」縁起の成就である。

經典に依る他宗の尊宿方や学者の方々の質問でよく聞かれることは「十二因縁を勉強して悟りを開きたいと、真剣に十二縁起を読むのですが、途中で曖昧模糊となって結局は、わからなくなって、悟りには到達できません」と。

それでは、經典などにはどの様に説かれているのでしょうか。

十二因縁又は十二縁起又は十二支縁起：。①無明 ②行(無明行業) ③識 ④名色 ⑤六処 ⑥触 ⑦受 ⑧渴愛 ⑨取 ⑩有 ⑪生 ⑫老死とあり、よく理解できないことも合点がゆきまず。

そこで簡単でわかり易い仏道定款 第四条としてみました。流れ図に従って第1縁起から第10縁起まで内観して納得して下さい。第11縁起から第12縁起までが公案であり、文字の上では透過できないところです。宗教の醍醐味があります。内観・思惟↓参禅↓公案↓透過↓見性成佛の流れで十二縁起を自らのものとして頂きたいと願うところです。

「心の財産」

演劇塾 長田学舎 斉藤維明

誰もみな 心は父の 形見なり

辱しめなよ 己が心を

誰もみな 体は母の 形見なり

傷をつけなよ 己が体を

これは江戸時代の元禄の頃、近江国大津の三井寺辺りから売り出された大津絵に記された歌です。大津絵は、素朴な仏画が始まりで、後に戯れごとや諷刺的なものをまじえた戯画風なものとなって世の中に流行したものです。

人は無形、有形の財産を親から譲り受けます。

親が子供に残す財産と言えば、お金、家、土地などの有形の財産と相場が決っています。しかし、これが後に諍いの種になることが世間ではしばしばあります。その点、無形の財産―心の財産はその心配がありません。

昔から「子は親の背中を見て育つ」と言われていますが、これは正しく心の財産の継承を意味する言葉だと思えます。但し、心の財産は何も親からだけでなく、恩師、先輩、友人など周りの人達からも受け継ぐことの出来るものです。

心の財産は、人として為すべきこと、守るべきこと、礼儀作法の躰などいろいろとあります。

一例をあげれば―

「他人との約束は必ず守る」、「裏切られても裏切るな」―これ等の教えは、信用と信頼と云う大きな財産を得ることに繋がります。

教えや躰とは少し異なりますが、名前も親が残して呉れる無形の財産と言えます。普段そんなことを意識することはありませんが、名前は親から子供への最初の心の財産の贈りものと言って過言でないと思います。名前―名付けの傾向は、時代の風潮、時勢に左右され易く、各時代の英雄・偉人にあやかって付けられることが多々あります。特に近年では、スポーツ界のスター選手や芸能界のスター達から取って名付けること

が著しいようです。しかし極く最近の傾向は今までとは少し違った様子に思います。

男の子は、大・太・陽・翔・悠・颯・蒼・光などの文字が人気で、優しい、おおらか、自然をイメージさせるものが多いようです。

女の子では、愛・結・心・花・葉・咲・優などの文字が好まれ、愛しい、優しい、明るいをイメージさせる文字が多いのです。そして、文字の組み合わせだけでなく、読みのひびきの良さも大切にされた文字の組み合わせが特徴的です。一部の若者達の間では、この響きの良い名前はキラキラネームと呼ばれているとか。

いずれにしても名前には、親の深い愛情と慈しみが溢れていることは、時代がどんなに移り変わっても不変と言うことでしよう。ただ最近、我が子を虐待する事件が頻発していることは、心が痛く大変悲しいことです。私の生家は、北海道の北部、宗谷地方の山村の禅寺です。その為なのでしようか、他所の家とはちょっと違う変わった名前の子や姉がいます。例えば、柳眠とか恵城とか云う名前の子であったり、真浪と云う姉です。



私の名前も維明と云う珍しいものです。父からは名前の由来を聞いたことはありませんが、母から「昔の偉いお坊さんからいただいた名前」と聞かされた記憶がありました。でも、そんなことはすっかり忘れ去っていました。

先日、NHKテレビの伊藤若冲じつちゆうのスペシャル番組を観た後、ふと思いつくようにして、若冲の図録を開きました。それは数年前、承天閣美術館で開催された、開基足利義満六百年忌記念「若冲展」の折りに購入したものでした。その図録の終りの方を見ていて、意外な名前を発見しました。それは「維明周奎頂相自賛」(青地楊洲筆)、「朱衣達磨図」(維明周奎筆)の維明でした。その時、「昔の偉いお坊さん」と言っていた母の言葉が活き活きと蘇ってきました。

維明周奎——この人のことを図録の中の「承天閣余話」と「作品解説」から簡単に抜粋すると——。

若狭坂田の人。郷里の大成寺で得度した後、相国寺塔頭たつちゆうの光源院第十五世の実兄、南巖妙喬なんがんみょうきょうの導きで相国寺に参じた。そこで、相国寺第

一一三世梅莊ばいそうけんじょう顯常(号を大典蕉中)に学んだ。

京都が炎に包まれた、天明八年(一七八八)の「天明の大火」では、相国寺もその伽藍の九割を焼失する。享和三年(一八〇三)に相国寺第一五世になった維明周奎は、相国寺の復興に努め、現在の相国寺の建造物の過半がその尽力によって再建が成ったものである。寺務に手腕を揮っただけでなく、当時の京都を代表する画僧でもあった。始め伊藤若冲到学び、後に元や明の絵画から学んで、梅を得意として名を馳せた。

「朱衣達磨図」は、陰になる部分に濃淡をつけ、立体感を描出する手法は、若冲に学んだ影響を思わせて興味深い。十月五日の「達磨忌」には、今なお毎年相国寺の法堂に掛けられて礼拝の対象となる特別なお軸である。

相国寺様のご好意により、おさだ塾が般若林に本拠を移して早や三十年代が経ちます。おさだ塾の一員としてだけでなく、個人としても、相国寺様には不思議なご縁を結んでいたのだと思います。

今ここに在ることを心から感謝しています。

名前負けと云うことをよく言われますが、維明周奎と云う相国寺様の高僧のお名前を、父がある種の期待をもって名付けて呉れたのでしょうか。しかし、今の私は随分と名前負けしているように思います。残り少ない人生ですが、名前に恥じないように生きて行こうとこころ新に思う今日此の頃です。

参考資料 開基足利義満六百年忌記念『若冲展』

編集／承天閣美術館 日本経済新聞

発行／日本経済新聞社

秋のおさだ塾の自主公演のお知らせ

観客完全参加の終日野外劇

『町かどの藝能』その四十二

「般若林」のお庭に入っすぐの木戸を一步くぐると

其処は江戸時代の京の都――

芸商人の芸と商い、観客の笑顔に溢れる

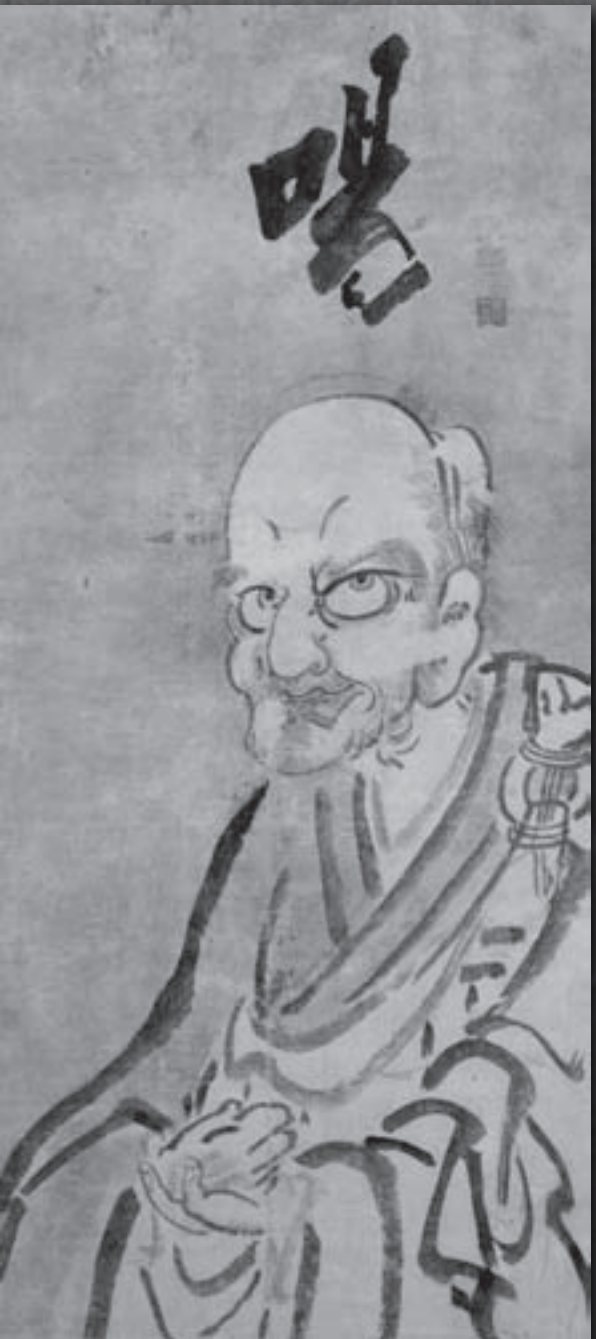
江戸時代の縁日にタイムスリップ

平成二十八年 十月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日) 十一時～十六時 於・般若林(相国寺北門前町)
お問い合わせ先／おさだ塾 TEL・FAX(〇七五)二二一〇一三八

「臨濟の喝かつ！」

教学部 江上正道

―宗祖 臨濟禪師 一一五〇年遠諱をむかえて―



白隠慧鶴禪師墨蹟「臨濟」 鹿苑寺蔵 平成二十九年に二五〇年遠諱をむかえる白隠禪師の面賛

平成二十八年(二〇一六)は、臨済宗の宗祖である臨済義玄禪師(？～八六七)が遷化(亡くなること)されて、数えて一一五〇年の節目の年である。『円明』読者諸氏の多くは、臨済宗相国寺派の各末寺の檀信徒や寺院関係者であるので、それぞれの寺院が大本山相国寺を本山とする一派に属することは、よくよくご承知の事であると思う。さらに臨済宗は「禪宗」である、そして禪的な生活、修行を日々実践するのだ、というようなことは法事あるいは坐禅会、各研修会などの折に関わりのある各菩提寺や本山の和尚様方から聞かれた事もあるだろう。

「臨済宗」は鎌倉時代に栄西禪師が日本に伝えた仏教の一派である、と教わった方が多いであろうが、「臨済宗」がどうしてその名になったのかといえ、ば、「臨済義玄」という禅僧が九世紀の中国におられたからである。そもそも臨済の生年は不明で、中国唐時代の曹州南華県(山東省西部)の出身、俗姓は邢氏ということぐらいしか生い立ちは分からず、何歳でお亡くなりになったのかも分からない。しかし、遷化後には唐の帝より「慧照禪師」と諡されており、その峻烈果敢な宗風からは臨済將軍とまで称された人物であった。つまり、臨済は中国「臨済宗」の宗祖であり、この時代に活躍した紛れもなく高僧だったのである。

臨済禪師には多くの弟子がおられた。その中の一人、三聖慧然が師の没後に、臨済の言行録である『鎮州臨済慧照禪師語録』、いわゆる『臨済録』を編集したとされているのだが、これが「臨済の法」を伝える語録として、テキストとして、弟子たちに読み

継がれてきた。語録からは、臨済と師匠あるいは弟子とのやりとりを知ることが出来る。この『臨済録』を用いた提唱(老大師の講義)は、今日の宗門(特に専門道場)でも続けられており、昨年からの一連の遠諱行事の一つとしても各地で行われている。現在一般に流布しているテキストは、中国では北宋の宣和二年(一一二〇)、日本版は元応二年(一一三二)に刊行されたもので、その後何度も出版され、また現代に入ってから各老師方が訳本、提唱本を発行され今日に至っている。

臨済は、幼少より人より抜きん出てすぐれており、成人しても孝行ものとして知られた、という。二十歳にして出家、禪に限らず大乘の仏教学を得て、行脚の後、広く名が知れわたっていた黄檗山(江西省)の黄檗希運禪師の門下に入り修行を経て、その法を嗣がれた。「無事は貴人」、「随所作主立処皆真(随所に主と作れば、立処皆な真なり)」などという禅語をご存じの方もあろうが、これらは『臨済録』に納まる言葉である。

そして特に有名な一言が「臨済の喝」であろう。「喝っ！」である。「喝！」「喝一喝」。今でも色々な場面で使われるから聞いたことがある。お葬式で導師の和尚が、引導の法語を唱えて「喝！」と一喝。先生が大声で生徒をしかる様子も「喝を入れる」などと言うし、毎週日曜日の朝に民放の情報番組のなかの名物スポーツコーナーで、プロ野球OB解説者がいいプレーには「あっぱれ！」、よくないプレーには「喝！」とやって定着している「喝！」である。あの解説者が「喝！」とはじめに発したのが、

誰であろう宗祖の臨濟禪師だということをご存じかどうかはさておき、弟子との問答において臨濟が大声で「一喝」した厳しくも鋭い宗風が、後の中国禪宗の形成に大きな役割を果たしたのである。しかも「喝」は「喝」でも臨濟は相手に応じて四種類の「喝」を使い分けたという。そこに本来のはたらき、修行を経て至った境地、まさに宗祖の教えがあるのである。

そして中国の禪は「五家七宗」といって、「臨濟宗」以外にも「潯仰宗」「曹洞宗」「雲門宗」「法眼宗」が成立、さらに「臨濟宗」は「楊岐派」と「黄龍派」に分派し発展していくことになる。その中の「楊岐派」の系統がのちの日本臨濟禪の主たる流れとなった。先にも記したように、鎌倉時代になって臨濟宗は栄西禪師が伝えたというのであるが、実は日本に伝わった禪は、なんと二十四流・四十七伝（諸説あり）といわれ、栄西が伝えたのはそのうちの一つ「黄龍派」であり、今日の日本臨濟宗の流れは栄西の伝えた流れではない、ということについては意外に思われる方もあるだろう。

臨濟は、唐の大中年（八五四）に今の河北省石家荘にある臨濟寺に入寺された。その臨濟寺は、中国仏教の盛衰や文化大革命など二十世紀半ばまでの荒廃期間を経て、一九八〇年代以降、日本の臨濟宗・黄檗宗の援助により復興をとげ、現在は一大伽藍を有している。そして平成二十八年九月には、この臨濟寺に於いて日中の関係者が集まり一一五〇年遠諱記念の「日中合同法要」とセレモニーが厳修されることになっており、訪中団が組まれるので、その模様は本誌次号で報告させて頂く予定

である。このように、臨濟禪師の生涯は決して詳しく分からないものの、かつて哲学者の西田幾多郎をして「自分は『臨濟録』と『歎異抄』さえあれば生きていける」と言わしめたほどの語録を遺して下さったので、皆さんもこれを機会に手にされてはいかがだろうか。

冒頭で掲載した墨蹟は、来年二五〇年遠諱をむかえる我が国臨濟宗の高僧である白隠慧鶴禪師（一六八五―一七六八）の手による『臨濟』である。賛は「喝」の一字のみ。両者には約八五〇年もの隔たりがあるが、ご覧頂いたように生き活きとした禪の氣迫がみなぎっている。白隠禪師は達磨をはじめとする多くの祖師方の墨蹟も多数したためられたが、臨濟の影響力はその当時でも大きいものであり、いかに偉大で重要な法源であったかが、ここからもお分かりいただけよう。

今回、筆者がこの臨濟禪師の一一五〇年遠諱に関連して、東福寺（京都市東山区）を会場に五〇年に一度の行事として執り行われた「遠諱大法会」や「報恩大摂心」、あるいは京都国立博物館で開催された特別展「禅―心をかたちに」等、諸行事の一部に関わる事が出来たのは、全くの巡り合わせであるが、臨濟禪師の遺された宗風を一一五〇年もの長期間にわたり受け継いでこられた宗門人の法灯とその教えを少しでも多く感じ得ると共に、なによりも真なる「喝」の「一喝」を「いま・ここ」この瞬間にも聞きたいと思うのである。

○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺(澤宗泰執事長)では開山忌並びに開基足利義満公の諷経が厳修された。有馬管長を導師に小林老大師、佐分宗務総長はじめ一山ならびに縁故寺院尊宿により諷経がなされた。

○同宗連連絡会開催

十一月二十五日、相国寺も加盟している同宗連『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議(の二十七年第三回第一連絡会が、相国寺会議室を会場にして開催され、矢野教学部長、江上教学部長が出席した。

当日は、「傾聴僧の会」幹事の河合宗徹師(臨済宗妙心寺派成徳寺住職)を講師にお招きし、「日々の暮らしの中で人々の苦悩に向き合う…傾聴」という演題で講義をたまわった。

人前で話す機会の多い僧侶だが、場合によっては命にも関わる問題に直面する人々の話に、いかにして傾聴(援助的コミュニケーション)できるか、という課題について考える機会となった。

講義後の連絡会では、議長教団の浄土真宗により議事の進行が行われ、各教団の取り組み等について意見交換が行われた。

○第五十回「京の冬の旅」オープニングセレモニー

一月九日、相国寺大方丈に於いて京都市観光協会主催、京都デスティネーションキャンペーン第五十回「京の冬の旅」オープニングイベントが開催された。当日は、方丈の広縁を会場に主催者側として門川大作京都市長、堀場厚京都市観光協会副会長、JR西日本堀坂明弘取締役、相国寺より佐分宗順宗務総長と「京の冬の旅」特別公開の長得院より緒方香州住職、養源院より平塚景堂住職、眞如寺より江上正道住職が、また来賓として京都市会議長の



同宗連講師として講義される河合宗徹師



佐分宗務総長挨拶

ほかJR西日本、関西民鉄各社重役らが列席した。

門川京都市長らの挨拶に続き、佐分宗務総長よりも挨拶をいただき、テープカット、そして特別拝観が開始された。引き続き方丈室中では祇園甲部歌舞会の舞妓による舞の奉納があり、最後に主催者、来賓の重役方は江上教学部員の案内で法堂と方丈を拝観していただいた。

○「京の冬の旅」五十年感謝の集い

一月十九日、リーガロイヤルホテル京都において、京都市・公益財団法人京都市観光協会主催の「京の冬の旅」五十年感謝の集いが開催された。

当日は門川大作京都市長、柏原康夫京都市観光協会会長が主催者として挨拶、「京の冬の旅」五十年のあゆみを振り返る映像紹介の後、五十年間に関わった四九〇の個人・団体を代表して相国寺の矢野謙堂教学部長が、門川市長より感謝状を受け取った。

本山一山からは、これまでに特別公開で協力した慈照院(久山隆昭住職)、養源院(平塚景堂住職)、眞如寺(江上正道住職)も列席し感謝状を受け取ると共に、同じく協力した鹿苑寺、慈照寺、大光明寺、長得院、瑞春院にもそれぞれ感謝状が送られた。

○臨黄合議所理事会

一月十九日、臨黄合議所理事会が京都東急ホテルにて開催され、佐分宗務総長が出席した。

○遠諱専門委員会

一月二十六日、臨濟禪師・白隠禪師遠諱専門委員会が花園大学にて開催され、佐分宗務総長が出席した。

○禅文化研究所理事会

二月十八日、禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久山慈照寺執事が出席した。



北山杉の感謝状が授与された



門川京都市長より感謝状を受ける矢野教学部長

○臨濟宗連合各派布教師特別研修会

二月二十六日より二十八日まで、昨年に続いて相国寺に於いて布教師特別研修会が開催され、全国より臨濟宗連合各派布教師会に所属する布教師五十六名が参集した。安単、齋座後、方丈にて開講式を行い、布教団本部総鑑である有馬管長の垂訓、総茶礼などを経て研修生は承天閣美術館二階講堂で研修を開始した。

また、同本部理事長の佐分宗務総長、事務担当の矢野教学部長、江上教学部員と布教師会理事、各山理事は会議室で理事会を行った。

翌日研修生は相国僧堂において小林老大師による『臨濟録』の提唱を拝聴し終日研修、最終日は朝課、粥座、掃除後、法堂や承天閣美術館を拝観・見学し、方丈での閉講式に出席した。三月、四月の春巡教を行う布教師には巡教任命書が配布された。

今回本派からは、牛江宗道師(第二教区竹林寺住職)、石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)、

福場宗康師(第五教区萬福寺住職)、松本憲融師(第六教区光明寺閑栖)の各布教師が参加し研鑽を積んだ。また松本師は、今回一等教師に任命されることになり、閉講式で布教団総鑑の有馬管長より叙任がなされた。

○前堂転位式

三月一日、開山堂に於いて第六教区龍源寺(田中恵山住職)徒弟の田中正明師の前堂転位式が挙行された。師は相国寺専門道場にて修行された。今後の活躍が期待される。



前堂転位式 龍源寺田中正明師

拜塔偈は左の如し。

年山今日碧雲鮮
黄鳥敲門驟暖天
祖塔一句余事無
眼前歷々夢窓禪

○第一教区総会

二月二十九日、第一教区総会が開催され、有馬管長以下、第一教区各寺院住職、閑栖和尚、副住職の計十八名が出席した。

○定期宗会

三月四日、各教区から登山した七名の宗会議員、評議会議長、鹿苑寺・慈照寺各代表、内局員全員の計十七名が出席のもと、平成二十七年定期宗会が本山会議室で開催された。有馬管長の入場後全員で開山諷経、続いてご挨拶をたまたわった後、大谷昌弘師(第三教区福圓寺住職)を議長とし審議に入った。平成二十六



定期宗会審議に先立ち挨拶する有馬管長

年度相国寺派・相国寺本山決算報告、二十八年
度相国寺派・相国寺本山予算案、承天閣美術館
平成二十六年度決算・事業報告、二十八年
度予算案・事業計画案が承認可決された。



決議録を読み上げる大谷宗議会議長

○臨濟禪師一一五〇年・

白隠禪師二五〇年・遠諱大法会

ならびに報恩大接心

三月九日、東福寺法堂(京都市東山区)において臨濟禪師一一五〇年・白隠禪師二五〇年遠諱大法会宿忌が厳修され佐分宗務総長が出頭した。翌十日には半斎が厳修され南禅寺派中村文峰管長を導師に各派管長、師家、宗務総長、内局部長ら関係各位が出頭し、九拜式に続き楞嚴呪が諷誦され、最後には南禅寺派蓮沼宗務総長より挨拶があった。相国寺派からは有馬管長、佐分総長、荒木光源院住職、久山慈照院住職、山木財務部長、久山慈照寺執事、江上、佐分両部員が出頭した。

また遠諱法要に先立ち、三月六日から九日朝まで東福寺本山、大禅堂、山内各所などを会場に報恩大接心が行われ、全国の各専門道場より雲水が二二三二名参集し、各老大師の教導のもと研鑽を積んだ。九日朝には、臨黄合議所遠諱総裁として有馬管長、遠諱実行委員長として佐分



雨天の東福寺三門で門送する有馬遠諱総裁ほか各山尊宿

総長も大接心接了の挨拶、総茶礼、記念撮影、三門での門送に列席し、三日間の修行の成果をご覧になった。

遠諱とは、五〇年に一回おこなう大法要のことであり、次回の遠諱は五〇年後の開催ということになる。



遠諱大法要半斎で出頭する各山尊宿

○東京別院開山忌並観梅茶会

三月十二日、完成なった相国寺東京別院に



東京別院の茶室「正覚庵」で濃茶を練る有馬管長

において平成二十一年以来、七年ぶりに開山忌が厳修され、有馬管長導師のもと佐分宗務総長はじめ一山が出頭した。その後、暖冬のため既に庭の梅が終わりかけていたが、観梅の釜がかかり、招かれた客は茶室「正覚庵」で管長自らのお点前による濃茶を頂き、書院の薄茶席、客殿の点心席と早春の一日を楽しんだ。また濃茶席、薄茶席、点心席での接待や来客の受付案内等は、一山和尚、相国寺事務員が務めた。

○第五十回「京の冬の旅」盛況の内に終了

三月十八日、京都市観光協会主催の「京の冬の旅」の特別公開が終了した。相国寺は今回法堂・方丈を公開したが、京阪バスによる定期観光バスのツアーも連日組まれ、一日当たりの拝観客数が過去最多を記録するなど、期間中三万三千人もの方々にお参りしていただいた。また山内塔頭の長得院・養源院、山外塔頭の眞如寺も初公開ということもあり、冬期にもかかわらず連日多数の拝観があった。

○春期焼骨灰供養法要

三月二十三日、方丈において京都仏教会と京都中央葬祭業協同組合の主催による京都市中央・宇治市斎場「春季焼骨灰供養法要」が昨年に続き厳修された。

法要に先立ち十時半より本派布教師の牛江宗道師（第二教区竹林寺住職）が法話をし、続いて有馬管長を導師に佐分宗務総長以下内局員、鹿苑寺・慈照寺両執事長らが出頭し、宮城泰年京都仏教会常務理事の弔辞に続いて法要が行われた。会場には、昨秋からの半年間に京都市・宇治市で亡くなられた方の遺族や関係者が訪れ、方丈室内や縁側は満席となり、法話と法要を通じて心静かに故人の冥福を祈った。

○春期巡教

臨済宗連合各派布教団に所属する本派布教師の「平成二十八年定期巡教」は、福場宗康師（第五教区萬福寺住職）が三月二十二～二十三日に滋賀県甲賀市の東福寺派と大徳寺派の計



焼骨灰法要前に方丈にて法話する牛江宗道師

二カ寺を、石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)が三月二十九～四月十三日に佐賀県小城市・多久市などの南禅寺派と東福寺派の計十七カ寺を、松本憲融師(第六教区光明寺閑栖)が三月三十一日～四月九日に福岡県福岡市・糸島市の大徳寺派と東福寺派の計十カ寺を、順に巡教した。

○瑞林寺夢窓国師毎歳忌

三月二十七日、第三教区瑞林寺(三重県津市・長谷寺高山宗親住職兼務)では開山毎歳忌が厳修され、佐分宗務総長と平塚承天閣美術館参事が拝請を受け出頭した。

(教区だより56ページ参照)

○臨黄合議所当番本山引き継ぎ

三月二十八日、本山事務棟において相国寺派が二年間引き受けた臨黄合議所(臨済宗黄檗宗連合各派合議所)の理事長・当番本山の引き継ぎが行われた。次期当番の南禅寺派より蓮沼宗務総長以下六名の内局員、臨黄合議所事務局

○第四・第二教区合同少年・子供研修会

四月五日、第四十七回・第四教区若狭少年研修会と第六回・第二教区子供研修会が、本年も合同開催で本山方丈・大書院にて行われた。今回は両教区合わせて学童七十三名、寺院十二名、役員十名の計九十五名が参加した。登山した少年少女たちは、方丈で般若心経、消災呪を唱え、佐分宗務総長の法話、第四教区伊藤彰相国会会長挨拶を聞いたあと、書院で学部員指導による坐禅を体験した。また、参加記念と



お経のプリントを手に誦経する児童たち

(禅文化研究所内)から中川弘道事務局長(本派第二教区大雲寺住職)他一名、相国寺派から佐分宗務総長以下五名が出席し、主に新年度からの行事説明等があり、看板の引き渡しが行われた。



臨黄合議所看板を南禅寺派蓮沼宗務総長(右)へ引き継ぐ佐分宗務総長



大書院での坐禅体験

して本山より数珠とクリアファイルが送られ、別室にて本山女子職員お手製のカラーライスを作法に従って頂いた後、それぞれ次の目的地へ向かった。(教区だより55・57ページ参照)

○春の京都 禅寺一斉拝観

四月十二日から五月二十二日まで臨済禅師・白隠禅師遠諱記念として企画された「禅寺一斉拝観(臨済宗黄檗宗連合各派合議所・禅文化研究所・京都市観光協会が主催)」に相国寺派も協賛し、相国寺は法堂と方丈を公開した。

○東京都美術館「若冲展」

オープニング式典にて法要

四月二十一日、東京都美術館(東京都台東区上野公園内)にて特別展「生誕三〇〇年 若冲展」の開会を前に、美術館の展示室にて有馬管長を導師に佐分宗務総長、澤鹿苑寺執事長、鈴木承天閣美術館事務局長、山木財務部長、久山慈照寺執事が出頭し法要が厳修された。今回は

相国寺蔵の「釈迦三尊像」三幅、相国寺旧蔵で現在宮内庁所蔵の「動植綵絵」三十幅の計三十三幅が一堂に会し展示され(東京では初開催)、他に鹿苑寺・慈照寺蔵の作品も多数出陳された。会期は、四月二十二日から五月二十四日であった。

○庶務部長交代

四月三十日、庶務部長職にあった草場周啓師(慈雲院住職)の退職が受理された。これにより同職は五月一日付けで、佐分宗務総長が兼務となる。

○京都国立博物館で相国寺「声明」披露

五月八日、相国寺より僧侶十名が京都国立博物館に出仕し声明を来館者の前で披露した。臨済禅師・白隠禅師遠諱記念として企画・開催された京都国立博物館での特別展「禅―心をかたち―」会期中(前記の禅寺一斉拝観と同期間)に講演会や坐禅会と共に記念イベント



東京都美術館「若冲展」法要



相国寺「声明」を披露

トが開催された。その一つが「声明―禪の祈り」で、同館内のホールにて黄檗宗萬福寺と相国寺が諷経を行った。当日は四月八日の仏誕生会(降誕会)から一カ月後ということもあり『浴佛偈』を相国寺に口伝で残る独特の節回しで披露した。また、諷経前には矢野教学部長による解説があり、相国寺に伝わる声明や法要の説明、経本の解説が行われた。

◆ 役配

導師 光源大和尚
維那 雅晶東堂(普廣院住職)
打磬 正道西堂(眞如寺住職)
大衆 林光和尚
大光明和尚
哲永東堂(慈照院副住職)
賢明西堂(是心寺住職)
昭文座元(豊光寺副住職)
宗秀座元(林光院副住職)
泰量座元(光源院副住職)



「浴佛偈」を読みながら行導する一山僧侶

○臨黄合同高等布教講習会に参加

五月十六日から三十日まで、妙心寺派大本山妙心寺(京都市右京区)で開催された「第三十八回臨黄合同高等布教講習会」に、相国寺派から松本昭憲師(第六教区光明寺住職)、平塚景山師(第一教区養源院副住職)の二名が参加し、布教師を目指して研鑽を積んだ。この講習会は二年に一度開催される。

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺(小出量堂執事長)では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。有馬管長を導師に、小林老大師、佐分宗務総長をはじめ一山尊宿、関係寺院僧侶により諷経がなされた。

○日田辯財天春季大祭

五月二十三日、大分県日田市にある西之山辯財天堂で春季大祭が厳修され、有馬管長を導師に、小出慈照寺執事長、澤宗秀師(林光院

副住職)、荒木泰量師(光源院副住職)、第二教区より牛江宗道師(竹林寺住職)が出頭して大般若が転読された。

○相国会本部役員会

五月二十六日、午後一時より本山会議室において、平成二十八年年度相国会本部役員会が開催された。般若心経一巻を諷経後、相国会総裁の有馬管長より挨拶を賜り、今回新理事に就任した第三教区土倉忠彦氏、第六教区上野敏孝氏には総裁より委嘱状が手渡された。引き続き副総裁の佐分宗務総長挨拶、第三教区理事土倉忠彦氏の議長選出を経て審議に入った。平成二十七年年度事業・決算報告、二十八年度予算案、事業計画案の順に事務局より示され、それぞれ承認可決された。また、今秋開催予定の相国会本部研修会の概要や開山忌団体参拝についての案内や提案も行われた。



相国会 有馬総裁の挨拶を聞く各理事・顧問



2名の新理事に委嘱状を授与する有馬総裁

当日の出席者は左記の通り。

	理事	顧問
第一教区	片岡 匡三	平塚 景堂
第二教区	波多野 外茂治	牛江 宗道
第三教区	土倉 忠彦	大谷 昌弘
第四教区	伊藤 彰	颯川 孝生
第五教区	勝部 和美	延本 輝典
第六教区	上野 敏孝	芝原 一三
副総裁	佐分宗務総長	
本部長	矢野教学部長	
主事	山木財務部長	
本部部長	江上教学・庶務部長	

○禅文化研究所理事会

五月二十七日、禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久山慈照寺執事が出席した。

○二十八年度春期特別拝観

三月二十四日より六月四日まで、法堂・方丈・宣明(浴室)を公開し、二二、〇〇六名の参拝があった。今期は、途中の四月十二日から五月二十二日まで禅文化研究所、臨黄合議所、京都市観光協会主催の臨濟禪師・白隠禪師遠諱記念「春の京都禪寺一斉拝観」に協賛し、拝観場所が法堂と方丈の二カ所のみとなる期間もあったが、境内南側の京都御苑内の京都迎賓館特別公開や、伊藤若冲生誕三〇〇年記念の御朱印を新たに用意するなどしたため、多くの拝観者があった。

秋期特別拝観は、九月二十五日より十二月十五日まで、法堂・方丈・開山堂を公開の予定である。
(巻末カラー175ページ参照)

○観音懺法会「ご先祖追善供養」

六月七日から十四日まで、伊藤若冲筆「動植綵絵」コロタイプ複製画三十幅を方丈に掛けて公開した。今回で観音懺法会「ご先祖追善



本年の観音懺法会「ご先祖追善供養」ポスター

門内からも見学の依頼等があり、法要中に多くの参拝者が訪れた。

◆役配

- 導師どうし 正道西堂(眞如寺住職)
- 香華こうげ 賢明西堂(是心寺住職)
- 自帰ずき 普廣閑栖大和尚
- 打磬たいけい 昭文座元(豊光寺副住職)
- 太鼓たいこ 哲永東堂(慈照院副住職)
- 大鈸おおぼち 宗秀座元(林光院副住職)
- 中鈸ちゅうぼち 泰量座元(光源院副住職)
- 小鈸こぼち 景山座元(養源院副住職)
- 維那いのう 雅晶東堂(普廣院住職)

供養」も三回目をむかえたが、本年は若冲生誕三〇〇年にあたり、テレビ番組や各誌で特集を組まれることも多く、広く関心を集めていることもあり、期間中に多くの来訪者を受付した。

○観音懺法会

年中行事の一つの「観音懺法会」が、恒例により六月十七日午前七時半より厳修された。本年は大本山妙心寺、妙心寺派寺院を始め、宗

○臨済宗連合各派布教団本部理事会

六月二十七日、午後一時半より担当本山である相国寺において開催された。全国の臨済宗各本山十一派から宗務総長、教学部長・部員と布教師会事務局計二十三名が参集し審議に入った。

会計を担当している教学部より平成二十七年年度の決算報告、次期当番の南禅寺担当者より二十八年度の予算案の読み上げがあり承認された。二年間にわたって相国寺が引き受けた布教団本部は、七月一日付けで南禅寺へ交代となり、教学部により事務、会計の引き継ぎが行われた。

○臨黄合議所総会

六月二十九日、南禅寺において臨黄合議所総会が行われ、相国寺からは佐分宗務総長、矢野教学部長、山木財務部長が出席した。

○遠諱賞典「法階調整」

七月一日、相国寺派の僧侶に対して「法階調

整」が行われ、対象者に辞令が交付された。本年は臨済禅師一一五〇年・白隠禅師二五〇年の遠諱法要など一連の行事が行われたが、それに合わせ本派では賞典として本派に属する僧侶の法階の調整(昇叙)が検討され、去る三月の定期宗会を経て各教区に傳達し決定された。今回法階が変更になったのは三十五名で、再住職じゅうしやく五名、前住職ぜんじゅうしやく十名、住持職じゅうぢしやく五名、東堂職とうどうしやく三名、西堂職せいどうしやく四名、塔主職たつしやく八名が新たに増加した。



長らく相国会本部理事をお務めいただき、平成十八年五月より二十四年五月までは、同会副会長職にあった第五教区西光寺総代の錦織貞久氏が去る四月二十五日にお亡くなりになりました。ここに哀悼の意を表し、故人のご尽力に対し謹んで感謝申し上げます。 合掌

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催

(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、經典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場：相国寺 本山大書院

時間：午前九時より十一時迄

内容：坐禅(九時～十時半)

法話(十時半～十一時)

注意点：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。(電話〇七五―二三一―〇三〇―一)

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

東京維摩会

平成二十八年の開催日は左記の通りです。

会場：相国寺東京別院 方丈・客殿

有馬管長坐禅会

九月十日(土)、十月八日(土)、十一月十二日(土)、十二月十日(土)

(八月は休会です)

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

小林老師坐禪会

八月二十日(土)、九月三日(土)、十月十五日(土)、十一月十九日(土)、十二月十七日(土)
時間：午後一時より二時半迄

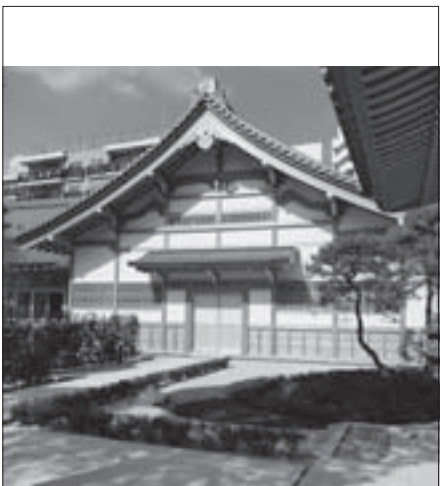
内容：『臨濟録』提唱、坐禪、茶礼

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆつ

たりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、

スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧いただくか、相国寺東京別院(電話〇三三四〇〇一五八五八)までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 方丈・客殿 玄関



TEL 03-3400-5858

会場：方丈・客殿

〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

教区だより

第一教区

○出町青龍妙音辨財天「消火訓練」

一月二十八日、山内塔頭の大光明寺(矢野謙堂住職)の飛び地境内である出町青龍妙音辨財天(京都市上京区青龍町)において、京都市上京消防署指導のもと「消火訓練」があり、門前の出町商店街をはじめとする奉賛会会員が住職と共に消火器を使った訓練を行った。

○出町青龍妙音辨財天「巳日巳刻法要」

五月十一日、同じく出町青龍妙音辨財天において、第四回「巳日巳刻法要」が厳修され、佐々木契堂師(天正寺住職)、江上正道師(眞如寺住職)、佐分昭文師(豊光寺副住職)出頭した。当日は百名ほどの申込者や参拝者があり、法要では導師の矢野住職が事前に受け付けた



妙音堂前にて消火訓練を行う参加者

参拝者の心願成就の祈願文を自ら回向の中で順に読み上げ、辨財尊天御真言を全員で唱和した後、堂内で一人ずつお札とお守りを授け、大般若の経本で加地厄除けの肩叩きをして、最後に法話をを行った。尚、来年は五月六日(土)の予定である。

○眞如寺「半僧坊大権現」御開帳

五月十五日、眞如寺においてカキツバタの開花時期に合わせて、鎮守の半僧坊大権現御開帳大祭が行われた。当日は半僧坊本山の大本山方広寺(静岡県浜松市引佐町)の湧出宜雄講社部長をはじめ、矢野謙堂師(大光明寺住職)、佐分昭文師(豊光寺副住職)、澤宗秀師(林光院副住職)ほか住職縁故寺院が出頭し大般若祈禱を行い、半僧坊大権現御真言を参列者全員で唱和した。法要の他に客殿のふすま絵の公開、書院でのお茶席、参道での手作り市も合わせて開催され、終日のにぎわいを見せた。尚、来年は五月十四日(日)の予定である。



眞如寺参道に出店された手作り市

○眞如寺「春の京都 禅寺二斉拝観」に協賛

四月十二日から五月二十二日まで臨濟禅師・白隠禅師遠諱記念として企画された「禅寺一斉拝観(臨濟宗黄檗宗連合各派合議所・禅文化研究所・京都市観光協会が主催)」に相国寺と共に眞如寺も協賛し、期間中は法堂と客殿を公開した。

第二教区

○子供研修会

四月五日、第六回「第二教区子供研修会」が開催された。参加者は子供三名、大人十一名と少なかったが、本山に於いて子供たちは熱心に研修を受けた。

午後からは大本山建仁寺様を訪れ、坂井田泰仙教学部長の御案内で特別拝観をさせていただいた。大方丈、法堂、書院等詳しい御説明を教学部長からいただいたり、一同感激して下山した。



建仁寺庫裏玄関前にて

○教区総会

四月二十三日、午後三時半より、長栄寺（京都市左京区岩倉）に於いて第二教区総会が開催され、十名の住職が参加した。本堂にて全員で調経した後、総会に入った。

議題として、次期支所長選挙について説明がされた。また、第二教区巡教開教についての詳しい説明も支所長から行われた。「良い試みであると思うが、新規の行事となるので、もう少し時間をかけて協議を重ねて欲しい」との意見が出た。総会の後は、懇親会を行い閉会となった。

会の運営にあたり、長栄寺鈴木景雲住職、寺庭婦人と寺族の皆様には大変お世話になった。

第三教区

○瑞林寺夢窓國師毎歳忌

三月二十七日、瑞林寺（三重県津市片田井戸



ご開山生誕地記念碑前で焼香する参列者

町・長谷寺高山宗親住職兼務）では、本山から佐分宗順宗務総長、平塚景山承天閣美術館参事を拝請し、開山毎歳忌を厳修した。

当日は、三年振りに晴天に恵まれ夢窓國師生誕地記念碑前にて大非呪読誦するなか、参列者一同焼香し夢窓國師の遺徳をしのんだ。

第四教区

○若狭相国会 役員会

十一月二十一日、若狭相国会役員会を正善寺に於いて開催した。今後予定の行事について協議した。

○宗務支所 支所会

十二月十七日、宗務支所支所会を開催した。定期巡教、少年研修会等協議の後、懇親会を行った。

○寺庭婦人会 新年例会

一月八日、寺庭婦人会新年例会を円福寺に於いて開催した。新年度行事について協議した。

○若狭相国会 役員会

二月十二日、若狭相国会役員会を正善寺に於いて開催した。定期巡教、少年研修会等について協議した。

○若狭相国会「春のお説教会」

三月五～七日、若狭相国会「春のお説教会」を定期巡教にあわせて、若狭相国会主催で次の五ヶ寺を会場にして開催した。開教会場は、長福寺・南陽寺・潮音院・円福寺・常禅寺。担当布教師は、南禅寺派長源寺岸本恵親師であった。

○若狭相国会 少年研修会

四月五日、若狭相国会少年研修会を本山相国寺、鹿苑寺に於いて開催した。
児童七十名、住職八名、相国会役員他七名計

八十五名が参加し、鹿苑寺に参拝後、本山にて坐禅研修。斎座を頂き、京都水族館にて研修した。



鹿苑寺「金閣」前で説明を受ける参加児童

○若狭相国会 役員会

五月六日、若狭相国会役員会を開催した。平成二十七年若狭相国会会計監査、若狭相国会総会について協議した。

○宗務支所 支所会

五月九日、宗務支所支所会を正善寺に於いて開催した。定期宗議会報告、平成二十七年教区会計決算等について協議した。

○若狭相国会 総会

五月二十日、若狭相国会総会を元興寺に於いて開催した。平成二十七年会計決算、平成二十八年会計予算等協議の後、「禅宗の初祖達磨大師とその伝説」について禅文化研究所藤田琢司師の講話があった。

○寺庭婦人会 例会

五月二十六日、寺庭婦人会例会を園松寺に於いて開催した。

第五教区

○出雲相国会総会

五月十一日、東光寺に於いて平成二十八年出雲相国会総会を開催した。平成二十七年事業報告、決算報告を審議し承認、続いて平成二十八年の事業報告書(案)、予算報告(案)を審議し承認した。

二十八年の事業は例年通り、「夏休み親子坐禅会」、本山の開山忌に合わせての「本山団体参拝」、「出雲相国会だより」の作成などである。本年は遠諱賞典として保壽寺閑栖和尚、東光寺和尚、富田寺閑栖和尚が再任職に推薦された。

第六教区

○住職会開催

五月十一日、午後六時より霧島観光ホテルにて今年度の第六教区住職会が開催された。



食事も作法に沿って頂戴する

始めに本山相国寺よりの報告。賦課金、相国会費等の徴収、意見交換が行われ、今春本山にて前堂転位式をされた龍源寺副住職の田中正明師には良福寺住職の近藤永進師よりお祝の新調袈裟が贈呈された。

第六教区寺院は鹿児島県、宮崎県の広範囲に点在しており、普段顔を合わせるが少ないため、年一度の住職会は和合を深める良い機会であり、寺庭婦人も別の時期に年一度、交流と親睦の集いを重ねている。

○独秀流ご詠歌 一日特別研修会

五月三十一日、良福寺（鹿児島県いちき串



木野市)の本堂において南禅寺派独秀流師範、遠田寿寛師(寿昌寺・佐賀市)をお迎えして、独秀流ご詠歌の一日特別研修会が開催された。当日は、午前九時～午後三時の間、良福寺、感応寺のご詠歌会員四〇名が熱心に研修を受けられた。

鹿児島島の独秀流ご詠歌は、昭和六十一年春に当時の本派南洲寺住職、矢野完道師の呼びかけで、独秀流開流総師範の正木義完師(長安寺・京都府福知山市)を特請して二泊三日の研修をうけて発足されたもので、爾来約三〇年の間、年一度の特別研修会を続けて開催されている。



相国寺史編纂室だより ― 『相国寺史』史料編中世一の内容 ―

『相国寺史』史料編の第一巻「中世一」の出版に向けての作業が大詰めを迎えています。編纂委員の原田正俊編纂室顧問と編纂室研究員でこの巻に収録する史料の選定を進め、本の原稿もほぼ出来上がりました。来年度には、いよいよ発刊の予定です。

第一巻は、相国寺勸請開山である夢窓疎石の生誕(建治元年／一二七五)から、室町幕府八代將軍の足利義政が政治を行っていた延徳元年(一四八九)までを対象としています。この期間の相国寺とその塔頭に関する史料、二千点強が年月日順に収録されています。それぞれの史料の前には、史料内容を簡単に要約した文を付けています。本書の目次に、この要約文を載せていますので、年表をめくるような感覚で相国寺を取り巻く情勢が理解できるようになっています。

本書に収録した史料をみていくと、序盤は夢窓疎石や実質開山である春屋妙葩の活動が中心になっています。どちらも、時の幕府や朝廷の信頼を得て門派を拡大し、以後の繁栄の基礎を築きました。相国寺の創

建期には、国家規模で行われた相国寺落慶法要など華々しい記事が続きます。室町時代前期、相国寺は將軍家菩提寺として莊園の寄進などの援助を受けて繁栄していました。一方、相国寺の伽藍が焼失する記事がたびたび出てきます。そのたびに何度も復興していく力強さを感じることができます。応仁の乱前後になると、室町幕府からの助成が少なくなり、焼失した建物の再建がなかなか進まなかったり、荒廃した塔頭の修繕が出来なかったりするなど、苦しい経営であったことが分かります。足利義政の時代には、慈照寺の前身である東山山莊の建造が大きなトピックになります。幕府の大名だけでなく公家や寺社も造営費の出費など大変な負担を強いられました。東山文化の形成を考える上でも興味深い事実です。

『相国寺史』をめくると、このような時代の流れを感じてもらうことができます。収録した史料には注釈を豊富に入れるなど、わかりやすい史料集を目指して編纂しています。どうぞ、ご期待ください。

教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長 佐分宗順

教化活動委員会が出版する洗建氏の座談『国家を超える宗教(仮題)』は、編集作業に手間取り出版が遅れておりますが、この本より客観的な視点を補う目的で、本年三月二二日東京別院において佐藤優氏を交え、洗建氏、田中滋氏、京都仏教会長沢香静事務局長、中外日報社の津村恵史氏とともに座談会を行い、この内容を追加致しました。その編集作業もほぼ終了しておりますので本年夏には出版の予定です。

京都仏教会編による『古都税の証言』も編集作業をほぼ終えておりますので、同じくこの夏にも出版できることと思えます。

本年度は臨済禪師の遠諱事業や、本山寺務所工事のため従来の研修会ができませんでした。上記の二冊の本は相国寺が古都税問題以来、京都仏教会とともに研鑽を積んで参りました宗教と国家のあり方、寺院のあり方、僧侶のあり方の研究、考察の現在までの集大成であります。ご精読を請う次第です。

来年度以降は、これを踏まえて、増え続ける新たな現代的諸問題、原子力発電による放射能の汚染問題、新たなテロ組織の問題、拡大する経済格差の問題、日本の憲法問題、ビッグデータによる個人情報保護の独占問題など、広い角度から問題を取り上げ、我々僧侶の問題意識を啓発し研鑽の機会を提供する研修会を開催して参ります。

これまでに行った研修会の講義録をご希望の方は、手数料一千円を添え、下記の相国寺宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。

申込先

相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話 〇七五二二二一〇三〇一

FAX 〇七五二二二一三五九一

ホームページ (<http://www.shokoku-ji.jp>)

平成二十八年度(雨安居)
相国僧堂 在錫者名簿

京都(相国)	大通院徒	鈴木承圓	岐阜(妙心)	萬福寺徒	興山元卓
京都(相国)	慈雲院徒	中山真周	京都(大徳)	大仙院徒	越中宗勇
京都(相国)	瑞春院徒	須賀集信			

創業明暦年間



〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221
TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352
ゴヨウハシチミヤ
0120-540738
9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00)
<http://www.shichimiya.co.jp/>

夢のある空間づくりのパートナー



トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理
TOTAL DISPLAY
FUSHIMI KOHGEI
株式会社 伏見工芸

[本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地
TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465
[宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地
TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254
e-mail: fushimi_d1.dion.ne.jp

税理士 奥谷 昌雄
税理士 内藤 誠

〒602-8026
京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地
TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461

Futura Active Alliance

office やまと

パソコンからネットワーク・サーバ構築まで
IT環境のトータルアドバイザー

本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土屋ノ内町19-13
TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494
中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極大宮寺子田町29-62
TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0270
E-Mail: info@office.yamato.net



社寺の電気、空調、防犯、防災設備

有限会社 土橋電気設備

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4
まちゃまちゃ 105号
TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332

こころをつたえる

和文具 和雑貨

株式会社 **表現社**

〒602-0861
京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る
TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354
<http://www.hyogensha.net/>

OA機器・オフィス家具
文具・事務用機器・印刷

株式会社
京都ベストビジネス

〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町102番地1
TEL (075) 812-7701 (代)
FAX (075) 812-7707

式典写真、風景写真など
あらゆるニーズにおこたえます！

柴田明蘭
写真事務所

(公益社団法人) JPS 日本写真家協会 会員

☎ 090-8387-7735
FAX 075-311-9369

〒615-0057 京都市右京区西院東長町24 シェルブリーユ 406 603

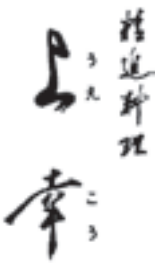
大本山相国寺御用達

社寺建築 (株)北村誠工務店

〒603-8225
京都市北区紫野南船岡東町45
電話京都 (075) 441-0563
FAX京都 (075) 441-0571

精進料理

〒604-1835
京都市中京区大宮通錦上ル
電話〇七五―八二二―一三八七二



大本山相国寺御用達

庭園 設計・施工

樋口造園 (株)

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル
電話 (075) 462-1385
FAX (075) 464-6120

大本山相国寺御用達

御法衣・仏具

(株)後藤利法衣店

〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル
電話 (075) 221-4587
FAX (075) 223-0094
フリーダイヤル (0120) 014587

大本山相国寺御用達

精進料理

矢尾 治

〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358
電話 (075) 841-2144
FAX (075) 841-2110
<http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp>

文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達

社寺建築 設計・施工
数寄屋建築



澤甚株式会社 澤野工務店

本社
〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入
TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775
山科事務所・工房
〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)

貴重な御法衣の御用は
大本山相国寺御用達

後藤新助法衣仏具店

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表) (075) 462-3915番
ファクシミリ (075) 462-3616番
URL <http://www.rinzai.jp>
E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp

大本山相国寺御用達

藤安田念珠店

〒604-8072
京都市中京区寺町六角角
TEL (075) 221-3735 FAX (075) 221-3730
<http://www.yasuda-nenju.com/>



ANA
CROWNE PLAZA
KYOTO

世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com



大本山相国寺御用達
社寺庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

ADACHI 是立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

印刷を極め、印刷を超える



ヨシダ印刷株式会社 関西支店 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572 [滋本本社] 1921-8546 石川島金沢市御影町19-1 TEL 076-241-2141 (代)
TEL 075-252-5421 (代) FAX 075-252-5423 [東京本社] 〒130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL 03-3626-1301 (代)
URL <http://www.yoshida-p.jp/> E-mail info@yoshida-p.co.jp [営業所・工場] 大阪・岡山・江東瀬尾



なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 **京都銀行**

<http://www.kyotobank.co.jp/>

JTB

感動のそばに、いつも。

(株)JTB西日本 団体旅行京都支店

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町167 AYA 四条烏丸ビル2F

TEL.075(284)0173 FAX.075(284)0153

担当：酒井 健次（営業時間 9:30～17:30 / 土・日・祝日休業）

大切な資産を、ご家族へ確実につなぐために。
生前贈与や万一の備えが簡単にできる三菱UFJ信託銀行の商品を
どうぞご利用ください。

元本保証・管理手数料無料

相続の準備に、簡単・確実な方法があります。



生前贈与
「おくるしあわせ」



教育資金
「まごよろこぶ」



相続型
「ずっと安心」

資料請求または
商品のご案内はこちら

0120-06-4087 ご利用時間 / 平日・土・日
9:00～17:00(祝日等を除く)

 **三菱UFJ信託銀行 京都支店**

お申込みはこちら 電話受付/平日9:00～17:00(土・日・祝日等を除く)
TEL. 075-211-7161 京都市京都市下京区四条通高倉屋入立売申之町65

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 松榮堂

京都本社 / 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595

東京支店 / 東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969

札幌支店 / 札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薫々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店



先人たちの賜物を伝えていく仕事。

デジタル再製画「伝匠美」 www.dnp.co.jp/denshoubi/

DNP

大日本印刷株式会社 www.dnp.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今葉屋町 318 番地

TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022

東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
自園茶 農林水産大臣賞 30 回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶

まんねんのみどり
萬年乃翠

御薄茶

じょうこう
常光



大本山相国寺御用達

宇治久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ (0774) 20・0909

・ジェイアール京都伊勢丹店
地下一階 銘茶コーナー

・西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業

・京都市中京区西洞院通御池下ル
電話 (075) 223・0909

「お取り扱い」全国有名茶店・茶道具店

www.marukyu-koyamaen.co.jp

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



URL <http://matsuishuzo.com>



享保十一年創業 清酒「五紋神蔵」醸造元

松井酒造株式会社

京都市左京区吉田河原町1の6 電話 075 (771) 0246



鯛割烹
たつみほし
祇園 白川 築橋畔
静かな佇まいに
せせらぎを聴く

〒605-0084
京都府京都市東山区八坂新地清本町371番地4
電話 (075) 531-1184

相国寺
東京別院
施工

www.mizusawa-inc.co.jp

水澤工務店 東京都江東区木場5丁目6番地1号 TEL 03-3641-7111



皆さまのお役に立てる、
コインパーキング。

キョウテク株式会社

本社

TEL **075-415-0100** FAX 075-415-0089

〒603-8143 京都市北区小山上総町10番地1キョウテク北大路ビル2F



法堂内部



開山堂の紅葉

相国寺 秋の特別拝観

京都今出川
鳴き龍の寺

平成28年9月25日(日)～12月15日(木)

※10月18日(火)～21日(金)は、開山忌法要のため拝観を休止いたします。

※10月3日(月)、4日(火)、5日(水)、12月8日(木)は法要・行事のため拝観時間に一部変更があります。

拝観時間：午前10時～午後4時 拝観場所：法堂・方丈・開山堂

拝観料：一般・大学生800円／65才以上・中高生700円

※団体割引有り ※行事・法要のため予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。

● 編集後記 ●

◇暑中お見舞い申し上げます。相国会会員の皆様をはじめ各位にはご健勝のことと拝察申し上げます。『円明』第106号が出来上がりましたので、ご高覧ください。

◇本年上半期は、何と申しまして4月14日夜に発生した熊本地震、その後の本震、度重なる余震により九州各地に甚大な爪痕を残しました。被災された関係各位、寺社関連施設におかれましては、あらためてお見舞い申し上げる次第です。

◇毎号お伝えしてきましたように、臨濟禪師1150年・白隠禪師250年両遠諱関連行事も、3月の東福寺での遠諱大法会ならびに報恩大接心、4月から5月にかけて京都国立博物館での特別展「禅-心をかたちに-」、さらに同期間の「春の京都 禅寺一斉拝観」開催と臨濟宗黄檗宗をあげて取り組み、相国寺派もこれに関わって参りました。残す大きな行事は、遠諱記念の訪中団を組み、9月に中国河北省の臨濟寺で行う日中合同法要や、10月からの東京国立博物館での特別展となります。尚、訪中団の参加予定者は、現在のところ管長猥下、小林老大師、宗務総長をはじめとした本派寺院僧侶に相国会々員の方々を加え22名です。

◇一昨年から引き受けておりました「臨濟宗黄檗宗連合各派合議所」「臨濟宗連合各派布教団本部」も無事2年間の本部事務、布教師研修会会場提供等を終え、次期本部の南禅寺様へそれぞれ引き継ぎを完了致しました。

◇「仏道定款」をお示しいただいた小林玄德老大師はじめ、ご寄稿頂きました諸氏には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

◇お盆も近づき、御先祖様の一年ぶりのお里帰りをご家族そろって気持ち良くお迎えしたいものです。猛暑の砌、御自愛ください。

(矢野謙堂 記)

円明 平成28年夏号(第106号)
平成28年8月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

「森田りえ子展」

平成28年4月5日～6月19日



4月4日開会式テープカット



展示風景

平成二十八年四月五日から六月十九日までの七十五日間、承天閣に於いて「森田りえ子」展を開催いたしました。期間中、有馬管長「華道未生流笹岡」家元笹岡隆甫氏、「京料理木乃婦三代目主人」高橋拓児氏、「観世流能楽師」片山九郎右衛門氏との対談会や画伯のサイン会等を催し、三万人の入館者で賑わいました。

金園寺
方丈杉戸絵
奉納10周年記念

いのち賛歌
森田りえ子展
きのう今日…
そしてたおやかに 時代をつむぐ

2016
4/5 - 6/19

会場中興持（即）515号（即）515号（即）515号
開催時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
観覧料：一般 800円、65歳以上・大学生 600円、中学生 500円、小学生 200円
※一般の方向けに20名様以上は1000円団体割引
※観覧券手帳は4冊500円（古くは1冊200円）

主 催：相国寺承天閣美術館、日本経済新聞社、朝日新聞社、NHK、読売新聞社
協 賛：一般財団法人森田氏

相国寺承天閣美術館
JOTENKAKU MUSEUM

「生誕三〇〇〇年記念・伊藤若冲展」

平成28年12月4日

相国寺観音懺法を荘厳する動植綵絵三十幅(コロタイプ複製画)を一堂に展示

伊藤若冲(じつちゅう)は近世京都画壇において、とくに個性的な画風をもって知られています。京都高倉錦の青物問屋の長男として生まれますが、商売が性に合わなかったのか、家業を弟に譲り、相国寺一三世梅莊顯常(ばいそうけんじょう)(大典禪師)を精神的支柱として画業に専念。狩野派や琳派、また中国宋・元の技法もとりいれ、独自の装飾画を完成しました。とくに鶏の絵が有名で、自らの家に数十羽も飼って観察していたと云われております。

明和七年(一七七〇)に、宝暦七年(一七五七)から約十年かけて描いた「釈迦・文殊・普賢の三尊像」と「動植綵絵三十幅」を、両親と自分自身の永代供養として相国寺に奉納。この「釈迦三尊像」と「動植綵絵三十幅」は毎年六月、相国寺方丈で厳修される観音懺法に明治二十一年まで掛けられておりました。そして明治二十二年、「動植綵絵三十幅」は宮中に献納され、その下賜金により明治の廃仏毀釈と上知令によって疲弊していた相国寺は現在の寺域を保つことができました。

この度若冲生誕三〇〇年を記念し、コロタイプ印刷により精密に復元された「動植綵絵三十幅」を一堂に展示しております。また宝暦九年(一七五九)、鹿苑寺(金閣寺)大書院に描いた障壁画五十面(重要文化財)も全て展示しております。相国会の皆様様の御高覧をお待ちしております。

※現在「動植綵絵三十幅」は宮内庁三の丸尚蔵館所蔵

承天閣事務局

生誕3000年記念
伊藤若冲展

相国寺観音懺法を荘厳する
動植綵絵30幅(コロタイプ複製画)を
一堂に展示

平成28年7月1日(金)～12月1日(日)
公開中無休

観覧時間：午前10時～午後5時(入館は1時30分まで)
拝観料：一般1000円
65歳以上/大学生600円
中学生300円/小学生200円
(観覧券は、地下鉄四つ葉100円内乗換券付)

協賛：相国寺入道年會 協力：MBS

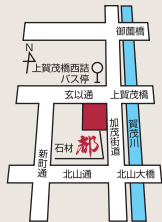
相国寺承天閣美術館
SHOKOKUJI JOTENKAKU MUSEUM
〒602-0808 京都府上京区中町日蓮宗丸太町上之五 TEL.075-241-0423 http://www.shokokuji.jp

とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ



代表 坪田 忠男



年中無休 営業時間/AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)
工 場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 電話(075)702-2440
(洛北病院バス停前)
夜 間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

豈非清浄身(蘇東坡 北宋)

あじようじよしん
豈清浄身にあらざらんや。
みぢした
翠滴る松、端然として建つ法堂。
そのまま仏の清浄なる姿であり、
自己と一体である。

撮影◎教学部(相国寺仏殿跡)